経済学研究科の修士課程で私が推奨する学習・研究スケジュール

同志社大学 手島健介

この文書は、同志社大学経済学研究科修士課程での2年間の学習・研究スケジュールについて、実証研究を志す人を前提にして、私の推奨する進め方をまとめたものです。大学院修士課程では経済学の上級レベルの学習と修士論文執筆が主にやることになってきます。

上級レベルの学習には(1)経済学のどの分野でも使われるミクロ経済学、計量経済学、マクロ経済学の基礎固めを行い、(2)それらの科目履修を前提にした各専門分野上級科目によって専門論文の読み方を学び研究を進める準備を行っていくことが含まれます。(1)をコアコース、(2)をフィールドコースと呼ぶことが多いです。なお、(2)を(1)の後に取るか、同時並行で取るかは、学生本人の学力状況や、博士課程進学希望かどうか、指導教員の方針に影響されます。

修士論文執筆のプロセスには研究テーマの選定とデータの確保、データ分析、執筆などが含まれ、それぞれで研究活動の実践的知識・技術を学びながら進めていきます。そして計画的な論文執筆が重要です。研究活動の実践的知識を得ることは(特に同志社の)講義だけでは不十分なことが多く、内部、外部の研究会に参加して最先端の研究についての議論を通して学ぶことが多いです。また、実証研究の場合、統計ソフトウェアの習熟が必須になりますが、これも講義が提供されていない場合自分で学ぶ必要があります。研究補助のアルバイトなどではそういう技術を身につけられることもあります（常にそうとは限りません）。

以下に、学期ごとの必要事項と推奨事項を詳しく説明していきます。なお、これはあくまで標準的なスケジュールであり、個々の学生の状況や研究の進捗に応じて柔軟に調整することを前提としています。また、就職活動を並行として行う場合はそのことによる時間制約も考慮する必要があるでしょう。

項目前に「(同)」とつけたのは、同志社大学限定の事柄です。それ以外の項目については他の大学の大学院でも一般論として私の推奨することとして当てはまります。

修士1年生

春休み・春学期（**3-7**月）

- 必要・推奨事項
    - 指導教員候補と連絡し、2年を通じてどのような履修スケジュールがよいか、取るべき講義が何かを話し合っておく
    - コアコース（ミクロ、マクロ、計量経済学）の履修
    - 経済学の基礎学力に応じて自分が興味のある分野の講義の履修
        - 指導教員候補の方針も確認しておくとよい
    - 基本的な統計ソフトの習得（Stata/Rなど）
    - (同)指導教員候補との面接決定(7月ころ)

        - 修士1年の春学期に指導教員を内定するのは経済学の大学院としては珍しい（多くの大学院では修士2年になるときで、まずはコアコースをちゃんと履修するべきという考えに基づく）
        - 修士課程の指導教員は後で変えられるので、もし他の教員に変える可能性があるのであればその教員とも定期的に話す機会を持つのが望ましい。ただし、同志社大学院の場合、理論専攻か応用専攻かで修了のための履修科目要件が異なるので、変える可能性があるなら変えても変えなくても修了に問題ない科目履修計画を立てるのが望ましい。
        - 一般論として、特に博士後期課程進学希望の場合複数の教員と定期的に話すような状態になるのが望ましい
- 余力があればしてもよいこと
    - 自分の分野で使われるソフト(例えばGIS)の基礎スキル習得開始
    - 研究テーマに関連する最新の実証研究のサーベイ開始
    - 自分の分野における自大学、他大学のセミナー研究報告参加聴講
    - 指導教員候補の大学院ゼミ(開催されていれば)
    - 研究助手などのアルバイト(機会があれば)

夏休み（**8-9**月）

- 推奨するもの
    - 基本的な統計ソフトの習得（Stata/Rなど）
    - 先行研究のサーベイの開始・継続・深化
    - データの所在確認と収集可能性の検討
    - 機会に応じて研究助手などのアルバイト
    - 可能であれば夏季の研究会やワークショップへの参加
    - RAブートキャンプ参加 https://www.ra-bootcamp.jp/

秋学期（**10-1**月）

- 必要・推奨事項
    - コアコース（ミクロ、マクロ、計量経済学）の履修
    - 経済学の基礎学力に応じて自分が興味のある分野の講義の履修
    - 基本的な統計ソフトの習得（Stata/Rなど）
    - 指導教員候補の大学院ゼミ(開催されていれば)
- 余力があればしてもよいこと
    - 具体的な研究計画の策定
    - 自分の分野で使われるソフト(例えばGIS)の基礎スキル習得開始
    - 研究テーマに関連する最新の実証研究のサーベイ開始
    - 自分の分野における自大学、他大学のセミナー研究報告参加聴講
    - 研究助手などのアルバイト(機会があれば)

冬休み～春（**2-3**月）

- 推奨するもの
    - 研究計画の具体化

- データセットの構築など
- 分析手法の具体的検討
- 研究に使う統計ソフトの習熟
- 研究助手などのアルバイト(機会があれば)

修士2年生

春学期（**4-7**月）

- 必要・推奨するもの
  - (博士課程進学希望の場合)学術振興会DC1への応募
  - 指導教員候補の大学院ゼミ(開催されていれば)
    - 各指導教員と研究指導のロジスティクスを確認すること
  - 自分が興味のある分野の講義の履修
    - 他大学に聴講(モグリ)に行くことも検討するとよい
    - 単位にならなくても、自分の研究関心を深める講義があるなら参加すべき（もちろん公式な履修でない場合は講義教員の許可が必要）
  - 修士論文のための作業(以下は例)
    - 研究計画の具体化
    - データセットの本格的な構築
    - 予備的な分析と結果の検討
  - (博士課程進学希望の場合)自分の分野における自大学、他大学のセミナー研究報告参加聴講
  - 就職活動を行う場合はこの時期に並行して実施

夏休み（**8-9**月）

- 推奨するもの
  - 修士論文作業(以下は例)
    - 本格的な実証分析の実施
    - 分析結果の整理と解釈
  - (同)修士論文中間報告準備
- 可能であれば
  - (研究が十分に進んでいて高い質の論文を書く段階にきていたら）応用計量経済学コンファレンス※に報告申込
    - ※院生・ポスドク・任期き教員向けの実証経済学コンファレンス
  - 研究助手などのアルバイト(機会があれば)
  - 夏季の研究会やワークショップへの参加
  - (まだの場合)RAブートキャンプ参加 https://www.ra-bootcamp.jp/

秋学期（**10-12**月）

- 必要・推奨事項
  - 修士論文草稿の段階的執筆(10-11月）
    - 11月末の初稿、12月の最終稿完成をめざす

            - (同)私個人の指導方針：11月末までに初稿が完成せず、かつ12月以降の集中して仕上げることに値するプロジェクトでない場合は修士論文でなくて修了論文にしてもらう
        - 実証分析の追加・改善
        - 研究報告での指摘を踏まえた改善
- 余力があればしてもよいこと
    - 専門的な講義の受講

年末年始～修了（**1-3**月）

- 必要・推奨事項
    - (同)(博士課程進学希望の場合)同志社博士後期課程奨学金Springプログラムへの応募
        - この奨学金の出願書類準備にもかなり時間が取られるので、なおさら修士論文は早めに仕上げてしまうことが望ましい
    - 修士論文の提出
    - 口頭審査の準備
    - （博士進学希望の場合）進学準備